
河原口高水敷

「(仮称) スポーツ・コミュニティ広場」

整備基本計画



令和 7 年 5 月

《目次》

第1章 はじめに

- 1-1. 計画の背景と目的.....1

第2章 現況把握

- 2-1. 計画地の現況.....2
- 2-2. 上位・関連計画.....6
- 2-3. 市民意向の把握.....8

第3章 コンセプトと整備方針

- 3-1. 求められる役割.....17
- 3-2. コンセプト.....18
- 3-3. ゾーニング.....19

第4章 導入機能と整備イメージ

- 4-1. 導入機能.....23

第5章 概算事業費とスケジュール

- 5-1. 概算事業費.....24
- 5-2. 整備スケジュール.....25

第 1 章

はじめに

1-1. 計画の背景と目的

1-1. 計画の背景と目的

海老名市は、神奈川県の中核部、東京から40km・横浜から20kmの圏内にあり、西は相模川を隔て厚木市、北は座間市、東は大和市及び綾瀬市、南は藤沢市及び寒川町と接しています。面積は26.59 km²であり、東西6.15km、南北8.7kmの南北に長い地形となっています。

西端を南北に相模川が流れ、中央から東部は丘陵地帯が南北へと縦断し、海拔11～84mで高低差の少ない緩やかな形状をみせています。

昭和後期以降の都市化の進展に伴い、住宅地や商業施設が次々と開発され、現在では典型的なベッドタウンとして成長しています。特に、海老名駅周辺は大型ショッピングモールや映画館、飲食店街などが集積し、若者やファミリー層に人気のエリアとなっています。市民の暮らしを支えるインフラも整備され、快適な住環境が広がっています。

若年層の定住が進んだことも踏まえ、2000年代以降、健康志向の高まりや、子育て世代・高齢者のスポーツ参加の推進を目的に、各種スポーツ教室や市民スポーツ大会の開催、地域スポーツクラブの支援を本格化させました。特に、子どもの運動能力向上や地域交流を狙った市主催イベントや、学校と連携した体育・部活動の充実、さらにウォーキングやジョギングといった気軽に取り組める健康スポーツの普及が広がった結果、全年代層にわたってスポーツ参加人口は堅調に伸長してきました。

しかしながら、全国的には人口減少・少子高齢化の進展によりスポーツ人口は徐々に減少を見せ始め、コロナ禍による外出自粛・三密回避といった運動機会の減少、昨今の酷暑によってもさらにスポーツ人口は減少を続けている状況です。

このような状況の中、スポーツ人口の維持・増加による地域の活性化や高齢者の「生きがいづくり」による健康寿命の延伸等、市民の生活の質向上のためにも運動機会の創出はまちづくりにおいても重要な視点の一つであるといえます。

河原口高水敷(※1)は、相模川の暫定改修が終了したことから、神奈川県から海老名市への無償での貸出が可能となったことも踏まえ、「海老名市都市マスタープラン(令和2年4月策定)」「海老名市スポーツ推進計画(令和6年5月策定)」「海老名市のスポーツ施設の今後の方向性(令和6年7月策定)」等の上位計画の中で、河原口高水敷をスポーツやレクリエーション拠点として整備する方針が示されたところです。

以上のような経緯を踏まえ、河原口高水敷を市民のためのスポーツ・レクリエーションの場として整備するための方向性を定め、本計画を策定するものとします。なお、計画地には将来的に神奈川県による河川改修工事が予定されているため、暫定的な利用を前提とした整備計画とします。

※1 高水敷とは河川の低水路(通常時、川が流れる部分)より一段階高い場所で、洪水時に水が流れる部分を指します。一般的に河川敷とも呼ばれ、普段は公園やグラウンドなどとして利用されます。

第 2 章

現況把握

- 2-1. 計画地の現況
- 2-2. 上位・関連計画
- 2-3. 市民意向の把握

2- 1. 計画地の現況

(1) 河原口高水敷の概要

計画地は、海老名市西部に位置し、圏央道「海老名 IC」、JR「厚木駅」からもほど近く、相模川に面した「河原口高水敷」です。

河原口高水敷にある相模川の堤防上は現在、ランニングや散歩などに利用されている他、サイクリングロード(さがみグリーンライン)としての延伸整備も計画されています。

また、河川敷は現在更地となっていますが、一部はターゲットバードゴルフ場として利用されている他、散歩や運動、ラジコン等といった趣味を中心に市民が多目的に利用しています。

■河原口高水敷の概要

計画名称	(仮称) スポーツ・コミュニティ広場
所在地	海老名市河原口高水敷
敷地面積	約 7.2ha
都市計画	市街化調整区域

■河原口高水敷の位置



■河原口高水敷の現在の様子



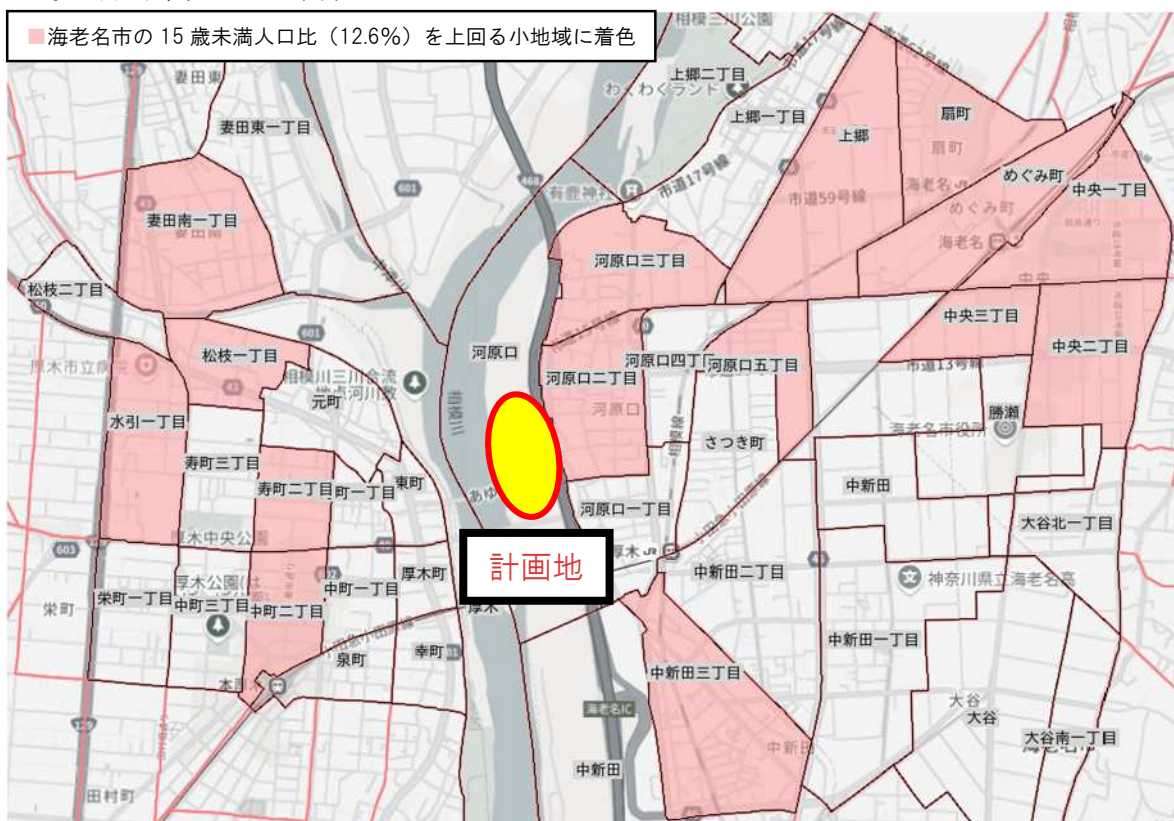
出典:NTTインフラネット

(2) 人口等の状況

海老名市全体の人口は、令和7年3月1日現在、141,320人となっています。また、河原口地区の人口は、7,679人となっています。河原口は、厚木駅・海老名駅にも近い住宅地として人気があり、駅周辺の都市開発やまちづくりの進展とともに着実に人口が増加している地域の一つです。

年少人口割合（15歳未満の人口に占める割合）について見ると、河原口高水敷周辺に位置する河原ロー丁目～河原口五丁目のうち、二丁目・三丁目・五丁目では、海老名市平均12.6%よりも高くなっています。

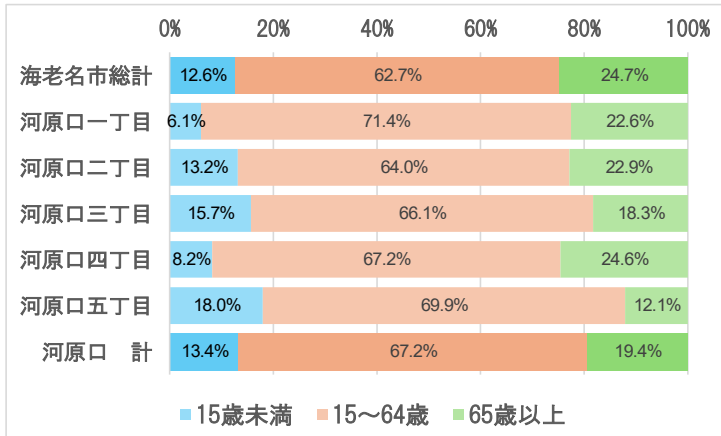
■町丁目別年少人口の割合



出典：j-stat 地図で見る統計 GIS（令和2年国勢調査）

■河原口高水敷周辺における年齢三区分別構成比

高齢化率（65歳以上の人口に占める割合）について見ると、河原口高水敷周辺に位置する河原ロー丁目～河原口五丁目において、すべての地区で海老名市平均24.7%を下回っており、高齢化率が比較的低い地域となっています。



(3) 交通等の状況

河原口高水敷は、「厚木駅(小田急線・JR 相模線)」から徒歩約 10 分の場所に位置し、公共交通の利便性が高い地域にあります。

また、海老名市 YouBus(ユーバス)の停留所「消防第4分団」から徒歩約5分の場所に位置しています。YouBus では、「海老名駅(小田急線・JR 相模線・相鉄線)」へのアクセスが可能です。ただし、現在の運行ルートは第 1 期実証運行における運行ルートであり、令和 7 年 10 月末に現行ルートでの実証実験の終了が予定されています。

圏央道「海老名 IC」からもほど近く、多方面からのアクセス利便性が高い場所といえます。

■計画地周辺の交通結節点



■YouBus 運行ルート



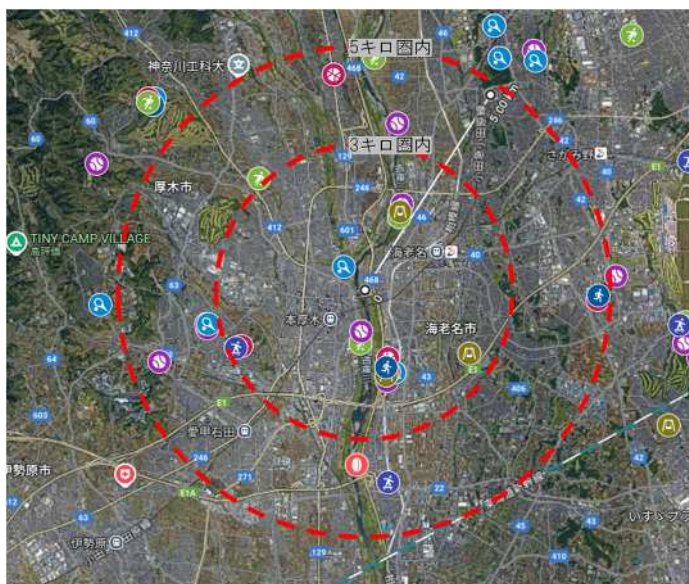
（４）周辺のスポーツ施設・レクリエーション施設の状況

海老名市内およびその周辺には、「海老名運動公園」や「県立相模三川公園」をはじめとして比較的大規模の公園が立地している他、海老名市内だけで 182 の公園が所在しており、市民の健康増進やレクリエーション、地域交流の場が充実しています。

しかしながら、市民一人当たりの公園面積に換算すると「5.0m²/人」となっており、この数値は「緑の政策大綱（建設省）」で示された長期目標である「20m²/人」には遠く及ばず、また全国平均（13m²/人）、神奈川県平均（8.0m²/人）を下回っていることから海老名市においては今後も継続した公園整備が必要であることが伺えます。

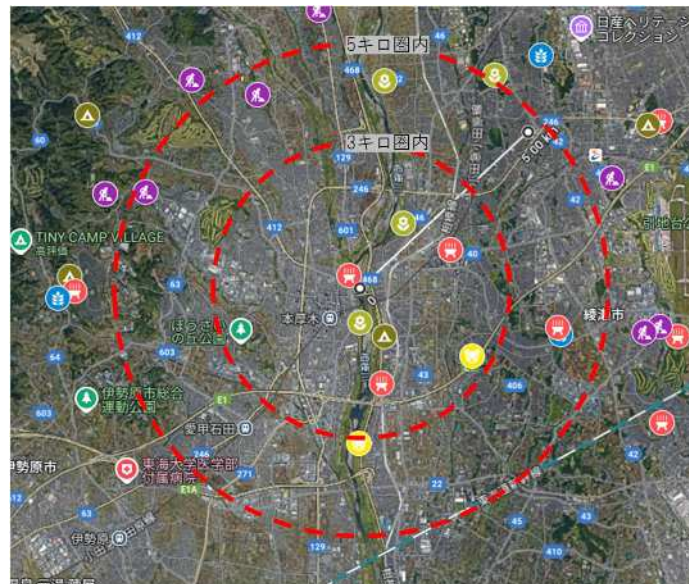
また、河原口高水敷の周辺におけるスポーツ施設、レクリエーション施設を整理した結果、バスケットボールコートやスケートボードパーク、多目的広場、キャンプ場やドッグラン、市民農園、ガーデンが比較的少ない状況にあることがわかりました。

■運動施設の立地状況



施設名	3キロ圏内 (箇所)	5キロ圏内 (箇所)
野球場	3	6
サッカー場	3	5
テニスコート	2	4
バスケットコート	2	5
スケボー	1	2
多目的広場	3	3

■レクリエーション施設の立地状況



施設名	3キロ圏内 (箇所)	5キロ圏内 (箇所)
BBQ場	3	4
キャンプ場	1	1
ドッグラン	1	2
市民農園	0	2
ハーブ園	0	1
ガーデン	2	4

2-2. 上位・関連計画

(1) 上位計画の整理

(仮称)スポーツ・コミュニティ広場に関する上位・関連計画について、下表のとおり計画内容から関連する項目を抜粋し整理します。

■上位関連計画一覧表

計画名	計画との関連事項
えびな未来創造プラン 2020 (令和2年4月)	<将来都市構造> ○水と緑のレクリエーション拠点 ・本市の特徴である緑や水等の豊かな自然環境の中で、多くの人が憩い・やすらぐことのできる空間を位置付けます <政策> Ⅰ 市民生活→スポーツ・レクリエーションの振興 ・子どもから高齢者、障がいの有無に関わらず全ての市民が広く参加できる事業を展開 ・各種団体等と連携し、「スポーツ」や「レクリエーション」を通じて、市民一人ひとりが心身の健康の保持・増進に取り組むとともに、仲間づくり、地域づくり活動に対して、継続して支援 ・県と連携し、スポーツ・レクリエーション施設のネットワーク化を推進 ・市民に安全・安心なスポーツ・レクリエーション施設の提供
海老名市都市マスタープラン (令和2年4月)	(4) 都市施設整備の課題 ③地域特性を考慮した公園・緑地などの保全・利活用 <将来都市構造> ○水と緑のレクリエーション拠点 ・本市の特徴である緑や水等の豊かな自然環境の中で、多くの人が憩い・やすらぐことのできる空間を位置付けます (3) 公園・緑地の整備・改善方針 ③豊かな自然や歴史を活かした公園・緑地づくりを進める
海老名市スポーツ推進計画 (令和6年5月)	2. スポーツ活動を支える環境づくり ○相模川高水敷の整備 相模川高水敷に市民のための「スポーツ・コミュニティ広場」を整備します。 ○相模川スポーツ施設のネットワーク化 神奈川県と連携し、県立三川公園・河原口高水敷・海老名運動公園・中野公園等をサイクリングロードなどで一体的に整備することで、相模川沿いのスポーツ・レクリエーションゾーンとして市民のスポーツ・レクリエーション活動の環境づくりを進めます。
海老名市のスポーツ施設の今後の方向性 (令和6年7月)	7. 今後のスポーツ施設の方向性 (5)河原口高水敷 県から無償で借地できることから多目的グラウンドを中心とした整備を行う。また、既存のターゲットバードゴルフ場は存続させる。なお、グラウンドへの導線確保のためのスロープ設置や、駐車場と管理事務室(用具倉庫及びトイレ)も併せて整備する。

（２）関連法規制の整理

当該整備区域は、高水敷であることから河川法上の「河川区域」ならびに「河川保全区域」に該当します。これらに該当する地区を開発（または工作物を設置）する際には、河川管理施設の安全確保や洪水時のリスクなど、河川本来の機能を損なわないことが大前提であり、河川法上の制約に従い、下記のような制限を受け、河川管理者の許可が必要になります。

1. 河川法に基づく許可の必要性

河川区域内で工作物を新築・改築・除却する場合、河川法第 26 条により、河川管理者の許可が必須となります。この「工作物」には、建物、橋、道路、管路、倉庫、通路、公共施設など多様なものが含まれます。

同様に、河川区域に隣接する「河川保全区域」でも、河川法第 55 条により、土地の形状変更や工作物の新築・改築には河川管理者の許可が必要となります。地下に工作物を設置する場合も同様に許可が必要です。

2. 工作物の設置が認められる場合

工作物の設置が以下に該当し、かつ、必要やむを得ないと認められる場合。

- 河川区域に設ける以外に方法がない又は河川区域に設置することがやむを得ないこと。
- 治水・利水上支障がなく、かつ他の工作物に影響を与えないこと。
- 周辺土地利用の状況、景観、その他の自然的及び社会的環境を損なわないこと。 …等

従って、工作物の設置が認められるためには一定の要件を満たし、必要やむを得ない場合に限られ、その許可には関係機関との協議や事務手続きが必要になります。

2-3. 市民意向の把握

(1) スポーツ人口の整理

中学校の部活動に所属する生徒を除いた競技人口は、サッカー(1,915人)、野球(1,519人)、テニス(1,323人)の順に多い状況です。

また、これら上位3種目については市内の中学校の部活動としての設置率が100%であることから、競技人口はさらに多いものと推測できます。

スポーツ協会（22種目団体）				割合	少年少女スポーツクラブ（14種目団体）				割合	中学校部活動（6中学校）			設置率		
①陸上競技協会	2	チーム	55	人	0.7%	①少年野球	15	チーム	247	人	15.9%	①陸上	3	中学校	50%
②野球協会	61	チーム	1,272	人	16.4%	②バレーボール	2	チーム	21	人	1.3%	②バレーボール	5	中学校	83%
③バレーボール協会	22	チーム	386	人	5.0%	③サッカー	8	チーム	400	人	25.7%	③バスケットボール	6	中学校	100%
④ソフトテニス協会	2	チーム	274	人	3.5%	④ミニバスケットボール	7	チーム	276	人	17.7%	④サッカー	6	中学校	100%
⑤テニス協会	14	チーム	1,049	人	13.5%	⑤剣道	5	チーム	134	人	8.6%	⑤軟式野球	6	中学校	100%
⑥サッカー協会	36	チーム	1,515	人	19.5%	⑥空手道	1	チーム	40	人	2.6%	⑥ソフトボール	3	中学校	50%
⑦バスケットボール協会	15	チーム	730	人	9.4%	⑦バドミントン	1	チーム	19	人	1.2%	⑦テニス	6	中学校	100%
⑧剣道連盟	15	チーム	273	人	3.5%	⑧ラグビーフットボール	1	チーム	77	人	4.9%	⑧卓球	2	中学校	33%
⑨卓球協会	19	チーム	363	人	4.7%	⑨硬式野球	2	チーム	100	人	6.4%	⑨バドミントン	6	中学校	100%
⑩弓道協会			65	人	0.8%	⑩柔道	1	チーム	27	人	1.7%	⑩剣道	4	中学校	67%
⑪水泳協会			20	人	0.3%	⑪ドッジボール	6	チーム	151	人	9.7%	⑪ラグビーフットボール	1	中学校	17%
⑫空手道連盟	5	チーム	173	人	2.2%	⑫新体操	1	チーム	37	人	2.4%				
⑬バドミントン協会	9	チーム	151	人	1.9%	⑬卓球	1	チーム	6	人	0.4%				
⑭ソフトボール協会	27	チーム	500	人	6.4%	⑭少林寺拳法	1	チーム	21	人	1.3%				
⑮少林寺拳法協会	6	チーム	76	人	1.0%	計	52	チーム	1,556	人	100.0%				
⑯柔道協会			47	人	0.6%										
⑰射撃協会			23	人	0.3%										
⑱ゴルフ協会			104	人	1.3%										
⑲ラグビーフットボール協会	8	チーム	411	人	5.3%										
⑳太極拳協会	8	チーム	105	人	1.4%										
㉑スキー協会	2	チーム	50	人	0.6%										
㉒レクリエーション協会	5	チーム	122	人	1.6%										
計	256	チーム	7,764	人	100.0%										

出典：海老名市のスポーツ施設の今後の方向性(海老名市文化スポーツ課|令和6年7月)

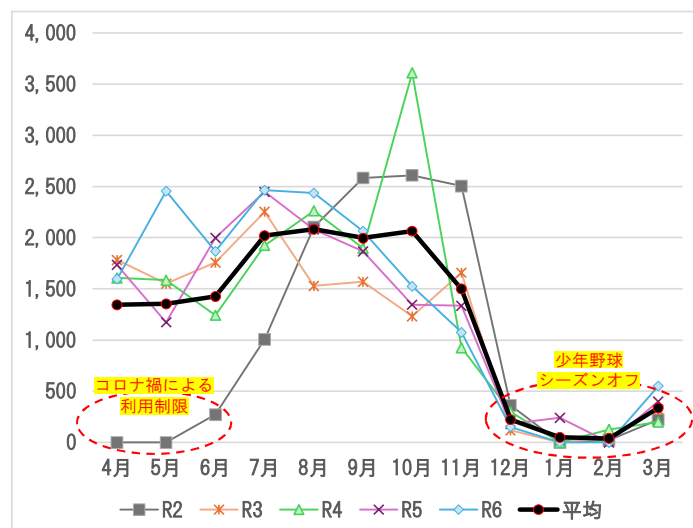
市内のスポーツ団体に所属している方は、スポーツ協会と少年少女スポーツクラブの会員及び中学校部活動の生徒を加えると1万人を超えます。

さらに、団体に所属せず個人でスポーツに楽しんでいる方を加えると、市内のスポーツ人口は少なくとも2～3万人はいることが推測できます。

(2) 施設利用者の動向分析

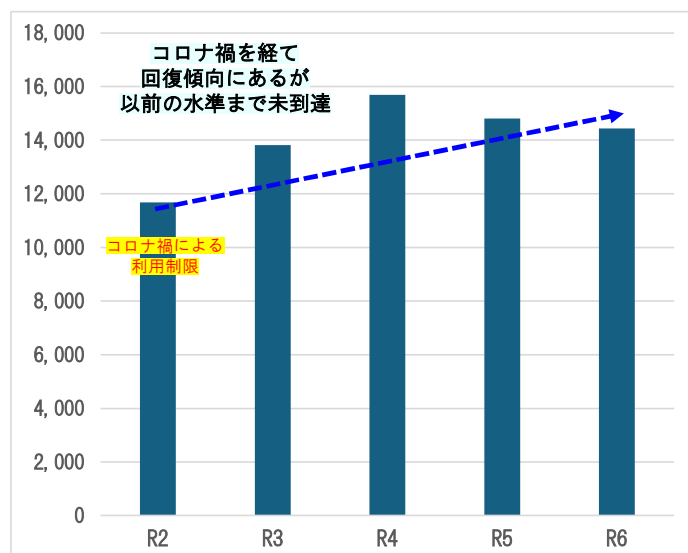
- 令和2年～6年の5年間の「海老名運動公園 野球場利用者データ」を集計
- 利用の時期は、7月～10月が多く、12月～3月にかけては利用がほとんど見られない
- 野球場利用者数はコロナ以前の水準まで回復せず、やや減少

◆年別・月別の野球場利用者数の推移



人数	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
R2	0	0	270	1,007	2,105	2,584	2,609	2,504	362	0	20	220	11,681
R3	1,783	1,551	1,757	2,254	1,530	1,569	1,232	1,658	118	0	41	320	13,813
R4	1,607	1,585	1,243	1,925	2,262	1,897	3,612	926	300	0	126	200	15,683
R5	1,735	1,173	1,999	2,448	2,082	1,868	1,346	1,334	180	240	0	400	14,805
R6	1,597	2,456	1,867	2,466	2,437	2,066	1,526	1,076	150	0	0	550	16,191
平均	1,344	1,353	1,427	2,020	2,083	1,997	2,065	1,500	222	48	37	338	14,435

◆年別の野球場利用者数の推移

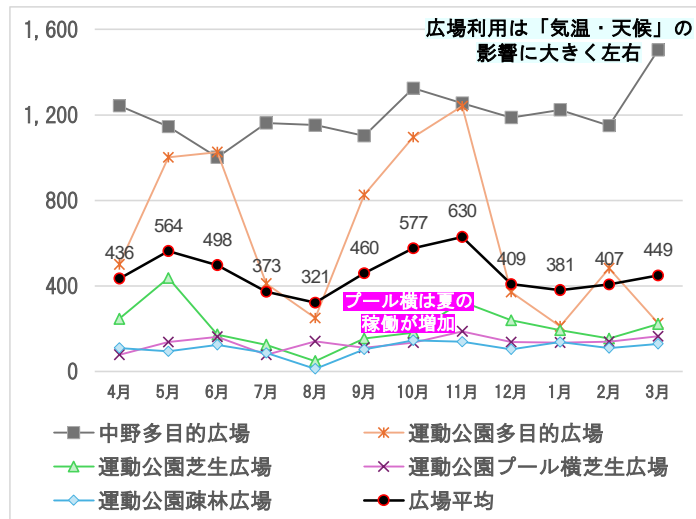


	R2	R3	R4	R5	R6
人数	11,681	13,813	15,683	14,805	14,435

出典：海老名運動公園・北部公園・中野公園・スポーツ施設利用人数集計（令和2年～令和6年）

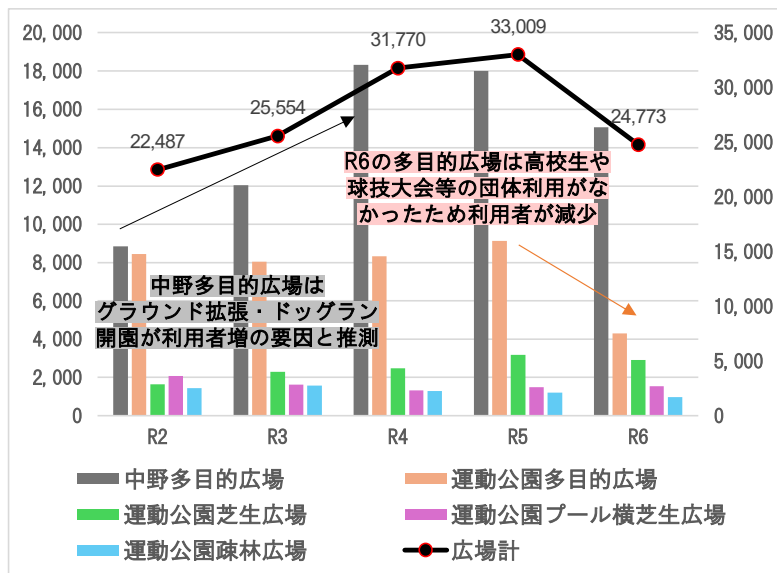
- 令和2年～6年の5年間の「広場利用者データ」を集計
- 6～8月の梅雨・夏季、1～3月の冬季は利用が下火になる傾向、春季・秋季の利用が好調
- 中野多目的広場の利用者増加が顕著であり、海老名運動公園の各広場の利用者は概ね横ばい

◆月別（5年平均）の広場利用者の推移（人）



	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
中野多目的広場	1,242	1,145	1,003	1,164	1,153	1,103	1,325	1,255	1,189	1,224	1,151	1,504	14,459
運動公園多目的広場	501	1,003	1,026	411	250	827	1,096	1,241	371	211	483	226	7,647
運動公園芝生広場	247	438	173	126	49	154	182	327	240	193	154	222	2,503
運動公園プール横芝生広場	78	138	163	77	141	111	135	187	138	136	139	165	1,609
運動公園疎林広場	110	94	125	87	13	104	146	139	105	138	111	129	1,301
広場平均	436	564	498	373	321	460	577	630	409	381	407	449	5,504

◆年別の広場利用者の推移（人）



	中野多目的広場	運動公園多目的広場	運動公園芝生広場	運動公園プール横芝生広場	運動公園疎林広場	広場計
R2	8,860	8,450	1,656	2,070	1,451	22,487
R3	12,040	8,037	2,289	1,623	1,565	25,554
R4	18,330	8,325	2,490	1,324	1,301	31,770
R5	18,008	9,126	3,177	1,484	1,214	33,009
R6	15,058	4,295	2,905	1,542	973	24,773

出典：海老名運動公園・北部公園・中野公園・スポーツ施設利用人数集計（令和2年～令和6年）

(3) アンケート分析①

- えびな少年少女スポーツクラブ（屋外種目）を対象に活動実績と河原口の利用意向についてアンケートを実施
- 52 団体のうち 23 団体より回答＜回答率 44％＞（大半が野球・ソフトボール関連チームからの回答）
- 約半数の団体が活動場所が不足、約 6 割の団体が「河原口を利用する意向あり」と回答

河原口高水敷整備に係るアンケート結果

1 回答数

団体名	母数	回答数	割合
海老名市ソフトボール協会	26	12	46.2%
少年野球連盟	15	8	53.3%
海老名市レクリエーション協会	1	1	100.0%
少年サッカー	9	2	22.2%
ラグビーフットボール	1	0	0.0%
計	52	23	44.2%

野球関連からの回答が 8 割

2 質問に対する回答（数値管理部分抜粋）

① チームの活動場所は十分あるか。

ある	11	47.8%
ない	11	47.8%
未回答	1	4.3%

② 河原口の河川敷を練習場所として利用する意向はあるか。

ある	14	60.9%
ない	7	30.4%
未回答	2	8.7%

回答の 6 割が利用意向アリ

◆活動場所の有無と利用意向の関係

活動場所がない団体は有料でも利用したい意向が多い
（普段の活動場所に不満や困りごとがある）



※活動休止中の団体を除く N=23
※利用料は有料（金額未定）

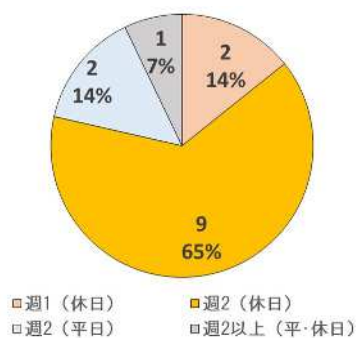
▶ 活動場所の有無と河原口の利用意向には相関が見られる

出典：海老名市スポーツ協会及びえびな少年少女スポーツクラブ（屋外競技種目）所属チームアンケート

- 利用意向のあった14団体を中心に意見を整理
- 週1～2回程度で活動しており、活動日は休日の割合が高い
- 少年野球グラウンド「2面」の整備要望が最も多く、高い整備水準を要求されている
- 付帯施設としては、ほとんどの団体から「駐車場」の要望があり、次いで「トイレ」「倉庫」の要望が多い

◆活動日数

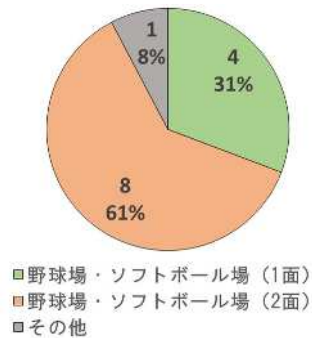
- ・大半が休日（土日）の活動



N=14

◆求める施設

- ・野球場は土・芝の整備を希望
- ・その他は「サッカー場」



N=13（未回答除く）

◆求める設備

- ・その他は、バックネット、スコアボード、電源、散水設備、自販機等



複数回答可

出典：海老名市スポーツ協会及びえびな少年少女スポーツクラブ（屋外競技種目）所属チームアンケート

(4) アンケート分析②

- 県民の体カスポーツに関する調査結果報告書（時系列比較）＜令和 5 年 1 月＞より、県民が取り組んでいる運動やスポーツの経年での意識・行動の変容を分析した

◆アンケート調査実施概要

① 調査地域 神奈川県全域

② 調査対象

令和4年度調査:令和 4年6月3日現在で満 20 歳以上の男女個人

平成 27 年度調査:平成 27 年4月1日現在で満 20 歳以上の男女個人

③ 調査方法

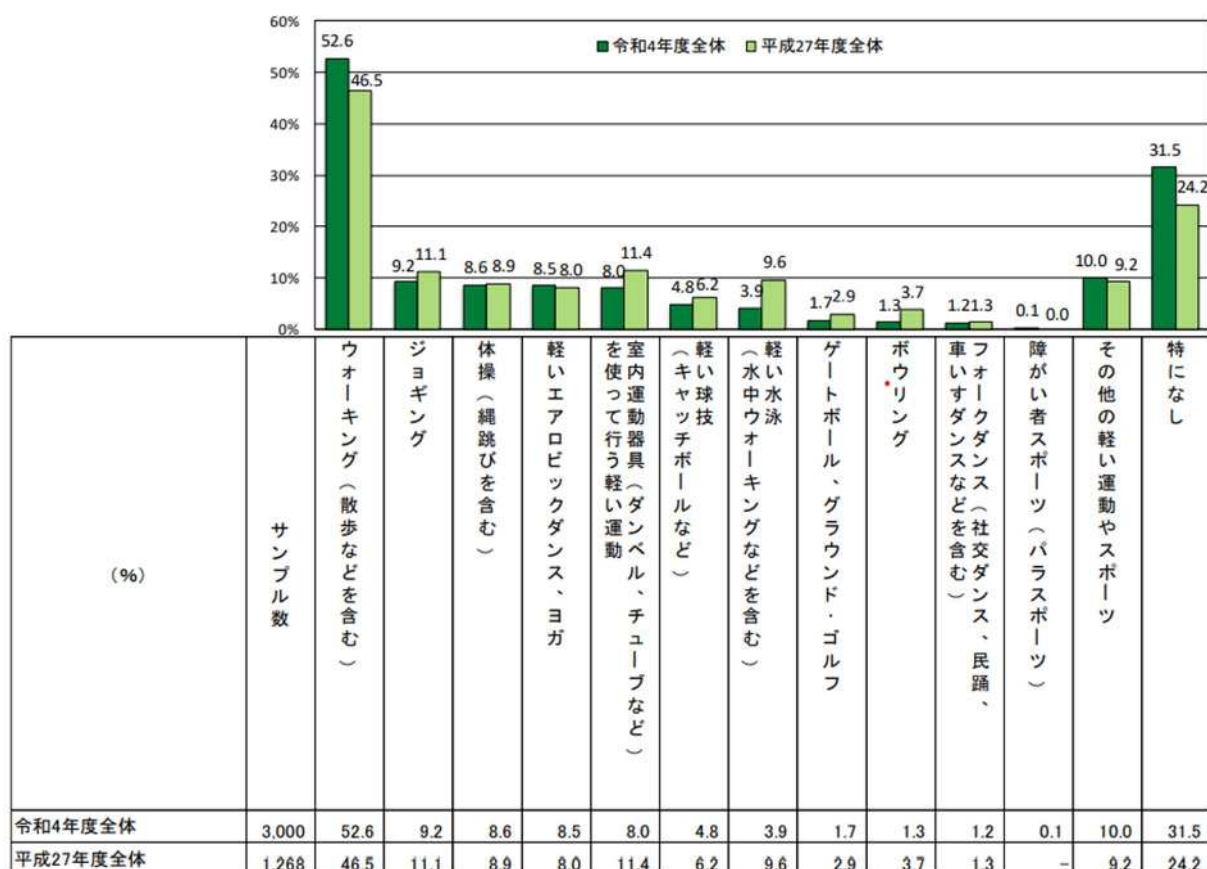
「楽天インサイト」パネル登録モニター（約 220 万人）を対象とした WEB アンケート調査

※平成 27 年度までは、アンケート調査票を用いた往復郵送調査法

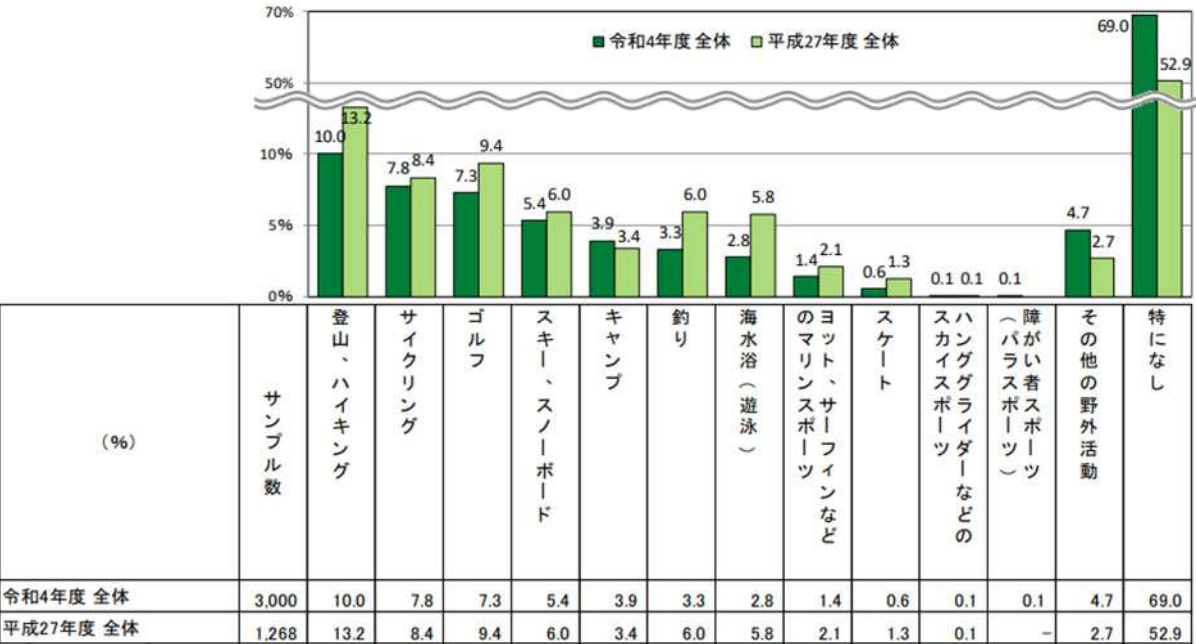
④ 標本数

回収標本数 3,000 サンプル

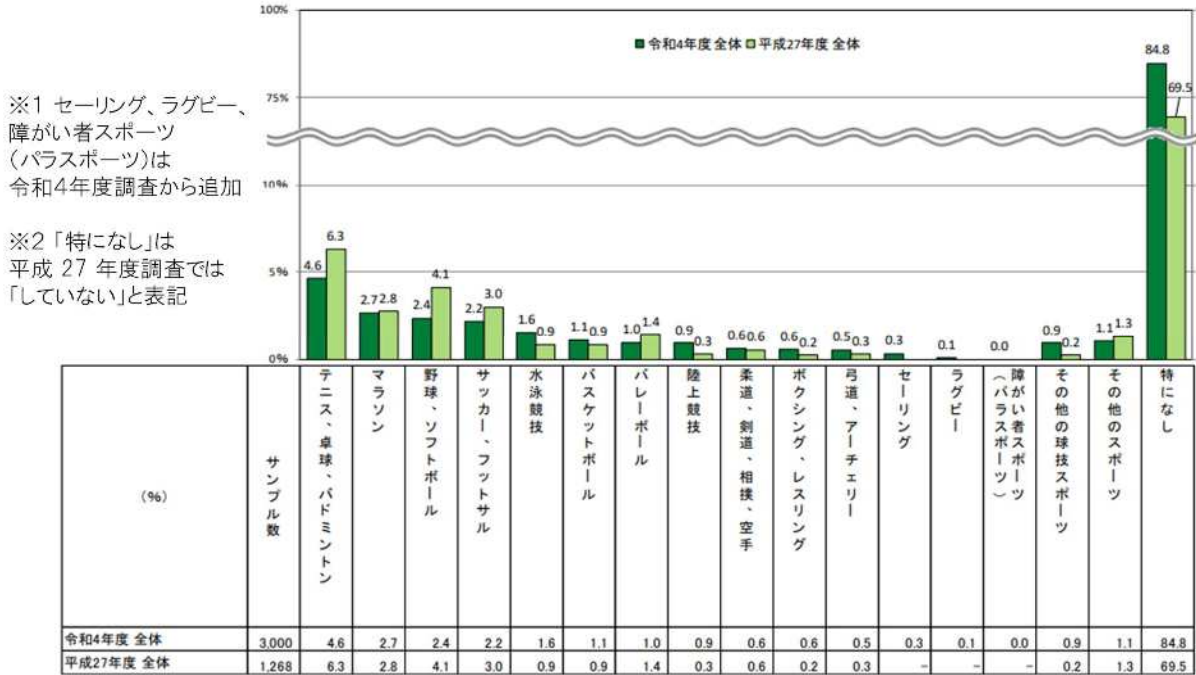
- 気軽に楽しんでいるスポーツや比較的軽い運動として行っているスポーツ（3 つまで回答可）
- 「ウォーキング」（52.6%）が最も高く、平成 27 年度（46.5%）と比較すると上昇（6.1 ポイント）した
- 他の運動については横ばいもしくは減少傾向となり、「特になし」が顕著に上昇（7.3 ポイント）した



- 野外活動として行っているスポーツ（3つまで回答可）
- 「特になし」（69.0%）が最も高く、平成27年度（52.9%）から大幅に上昇（16.1ポイント）した
- また、他の種目の実施状況は全て10.0%以下であった



- 競技として行っているスポーツ（3つまで回答可）
- 「特になし」（84.8%）が最も高く、平成27年度（69.5%）から大幅に上昇（15.3ポイント）した
- 他の種目は全て5.0%未満であった



(5) パブリックコメント・スポーツ協会へのアンケートの実施

◆パブリックコメント実施概要

① 実施期間：令和7年4月1日(火)から同月30日(水)まで(30日間)

② 実施方法及び意見：提出意見件数 39 件

※市公式 LINE33 件、市ホームページ5件、持参1件

③ 主な意見・回答

主な意見内容（要旨）	件数	海老名市からの回答
パークゴルフ場の整備要望	5 件	近傍に県立公園などの代替施設あり。
人工芝でのグラウンド整備要望	3 件	水害発生時の復旧費用や整備に係る費用対効果に鑑み天然芝を選定。
サイクリング・自転車競技での利便性確保	3 件	県所管のため、市としても要望中。
B B Q ・キャンプ利用希望	3 件	近傍に代替施設あり。
ドッグラン新設・運用方法の要望	2 件	「海老名運動公園再整備計画」において新設予定。
渋滞等の懸念・対策要望	2 件	駐車場への引込動線を確保するなど、渋滞を発生させない整備を行う。

◆スポーツ協会へのアンケート実施概要

① アンケート回答：空手道連盟、ソフトボール協会、柏ヶ谷フットボールクラブ

② 主な意見の整理

- 野球・サッカーに特化した広場ではなく多様なスポーツが楽しめる施設整備が望まれているとともに、暫定整備であることや水害時の復旧も勘案した施設整備が求められています

(6) アンケート分析のまとめ

- サッカー、野球、テニスが競技人口の上位となっており、ニーズが高いと推察できます。
- 特に野球関連のスポーツ団体からのアンケート回答率が高かったため、関心が高いものと考えられます。
- ただし、野球はシーズンオフがあり、野球場の利用頻度にバラつきが生じるため、年間を通して利用しやすい施設整備の工夫が必要です。
- 近年の酷暑の影響により、夏季の広場利用者は減少傾向が予想されます。
- 求められる施設としては「トイレ」「駐車場」が多く、上位計画の整備方針とも合致します。
- ウォーキング等の日常に気軽に取り組める運動のみ取り組んでいる人口は微増していますが、それ以外の球技や運動については減少傾向にあることから、個人が多目的に利用できる広場の整備も一定の割合で必要です。
- ただし、暫定的な整備であるためその費用対効果や整備水準については慎重に検討する声も挙げられています。

第3章

コンセプトと整備方針

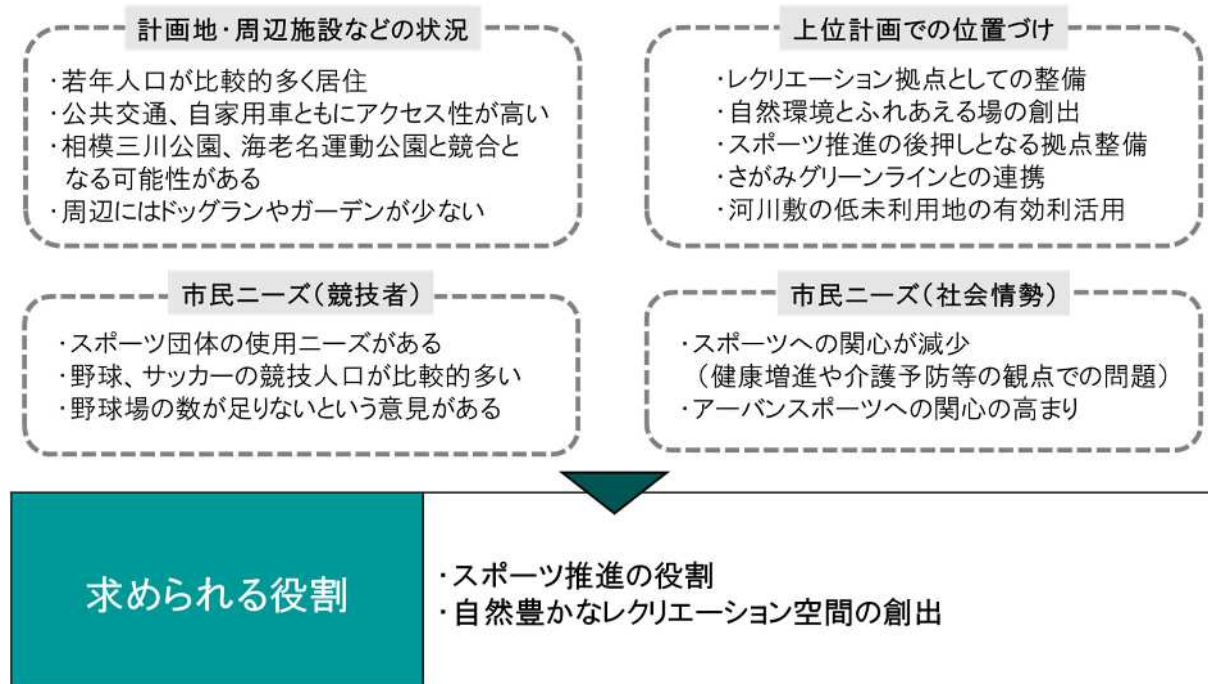
3-1. 求められる役割

3-2. コンセプト

3-3. ゾーニング

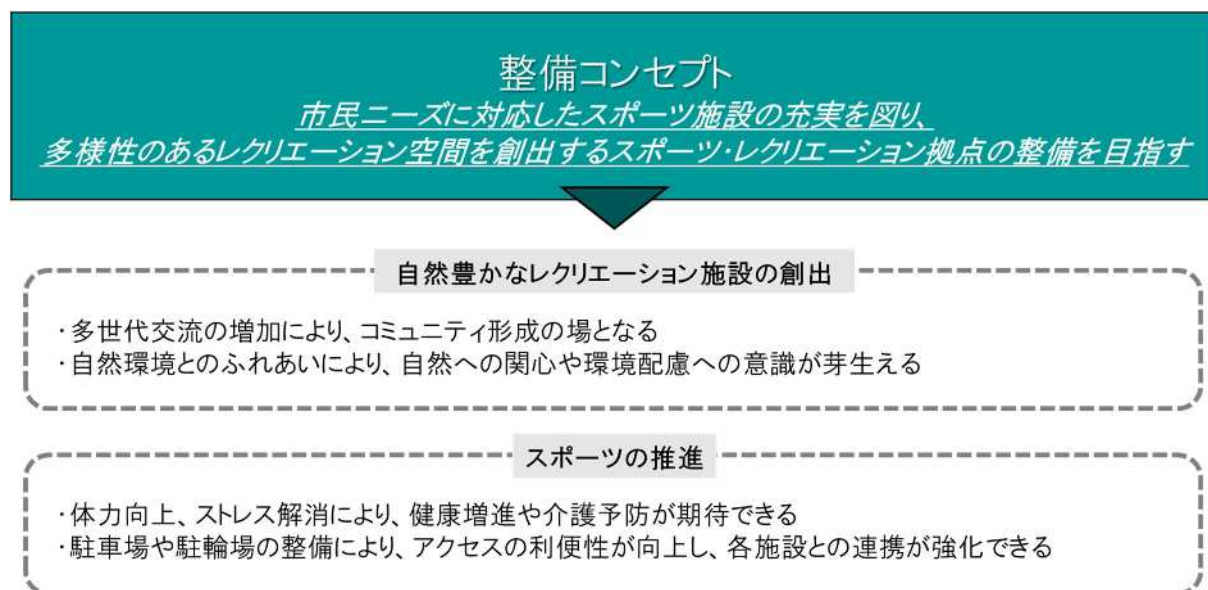
3-1. 求められる役割

計画地・周辺施設等の状況、上位計画、市民ニーズ（競技者、社会情勢）より、河原口高水敷に求められる役割は「スポーツ推進の役割」と「自然豊かなレクリエーション空間の創出」の2つとします。



3-2. コンセプト

求められる役割より、河原口高水敷の全体コンセプトは、「市民ニーズに対応したスポーツ施設の充実を図り、多様性のあるレクリエーション空間を創出するスポーツ・レクリエーション拠点の整備を目指す。」とします。



コンセプトに沿った、導入が考えられる施設は以下の通りです。

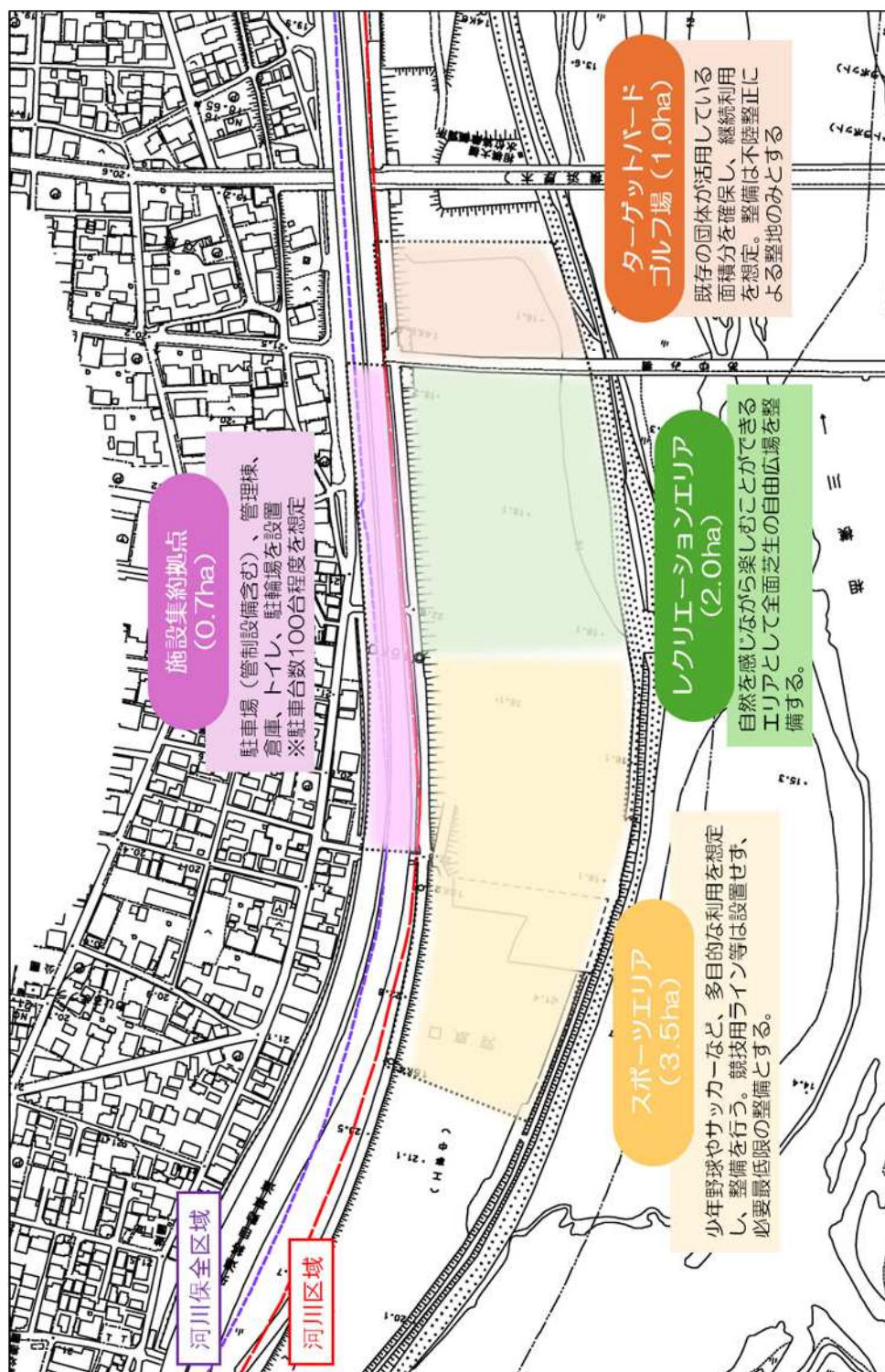
レクリエーション、自然とのふれあい	スポーツ施設
・芝生広場(イベントなどに使用) ・遊具広場 ・ドッグラン ・バーベキュー場 ・キャンプ場(ピクニック広場) ・ビオトープ、フラワーガーデン、市民農園	・ソフトボール場、少年野球場、硬式野球場 ・サッカー場、フットサル ・テニスコート ・ラグビー場 ・ターゲットバードゴルフ ・パークゴルフ ・バスケットコート ・スケートボードパーク ・ビーチバレー ・ビーチサッカー ・陸上トラック ・ハイキングコース、サイクリングロード ・多目的広場
その他	
・駐車場 ・駐輪場(サイクルラック) ・トイレ ・管理事務所	

3-3. ゾーニング

(1) ゾーニング

ゾーニングを下図のとおりとしました。

河原口高水敷は河川法の規制がかかる土地であり、2019年に発生した台風19号の被害のように浸水の可能性があるため、浸水後の復旧に対しても留意しました。



（２）検討時のゾーニング案

ゾーニングにおいて、以下の3案を統合した案を採用案としました。採用案においては、「河原口高水敷が暫定的な利用を前提としている点、関係機関との協議や整備期間の短縮を踏まえた施設である点、予算の縮減と浸水を想定した施設である点」を考慮しています。

ゾーニング3案の設定趣旨や配置の考え方等について、前段までの整理内容と整合させ下表のとおりとしました。

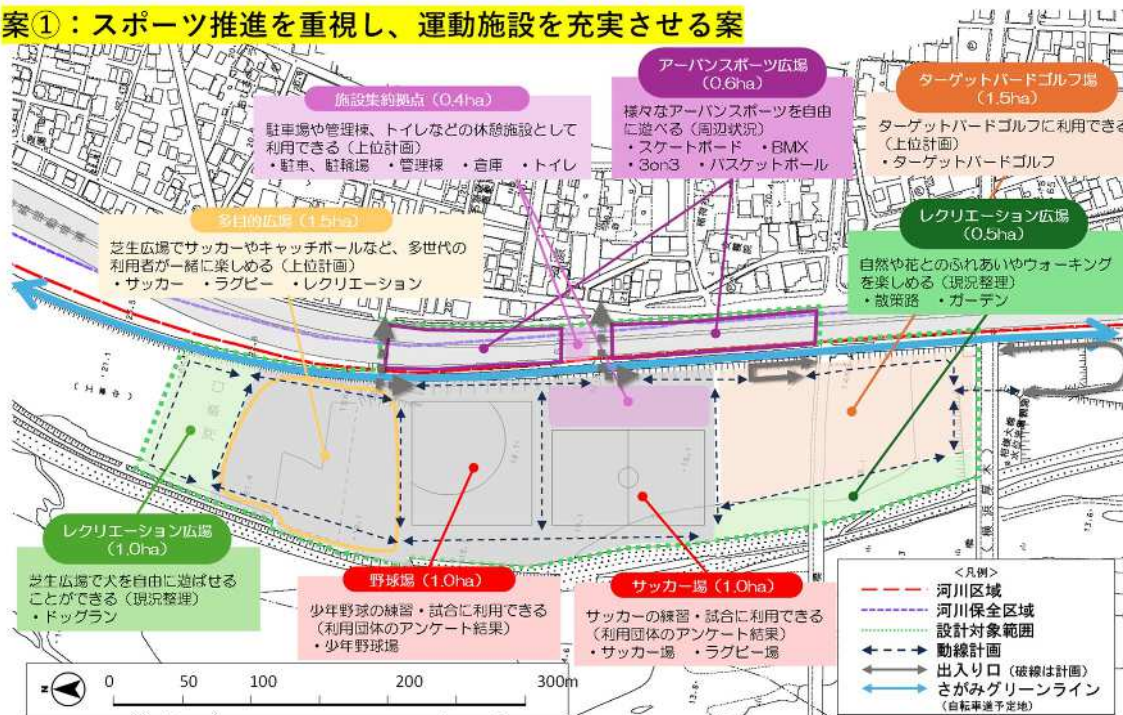
	第1案	第2案	第3案
設定の背景	スポーツ推進計画より、スポーツへの関心を強化し、市民の健康増進等を図る	スポーツ人口が減少傾向にある中でも、広場の利用者は安定しており、今後もニーズは高いと推測し、多世代の交流の場を提供する	スポーツ施設・レクリエーション施設のバランスを概ね1：1とし、市民の多様なニーズに応えられるようにする
背景を踏まえた方向性	スポーツを重視し、野球やサッカーからアーバンスポーツまでの施設を充実させる	レクリエーションを重視し、遊びや体験行える施設を充実させる	スポーツとレクリエーションのバランスを図り、多くの施設を充実させる
上位計画との整合性 (詳細は次頁)	28/36点	28/36点	30/36点
ニーズとの整合性 (詳細は次頁)	5/9点	7/9点	6/9点
施設配置の考え方	・スポーツ広場を全体の5割の面積配分とした。 ・雨風をしのげる高架下をアーバンスポーツ広場として、駐車場を動線より河川敷中央部に配置。 ・野球場とサッカー場を駐車場付近に配置して、多目的広場を広く設定。 ・レクリエーション広場はドッグランおよび自然とのふれあいが創出できるガーデンを河川敷エリアの川側に配置。	・レクリエーション広場を全体の3割強の面積配分とした。 ・利用のしやすさから動線延長に自由広場を配置。キャンプエリアやBBQエリアは住宅地への影響と三川合流の眺望を意識して河川側へ配置。市民農園では収穫体験等を実施、BBQエリアとの連携を意識して隣接配置。 ・高架下の日陰スペースを有効利用し、夏季でも利用しやすい遊具広場を設置。 ・スポーツエリアは少なくとも野球場（サッカー場）1面を確保できる面積を確保。	・スポーツ広場を3割、レクリエーション広場を3割の面積配分とした。 ・野球場を1面配置。 ・多目的広場にサッカー場を配置して用途の多様化。 ・キャンプエリアやBBQエリアは住宅地への影響と三川合流の眺望を意識して河川側へ配置。 ・市民農園では収穫体験等を実施、BBQエリアとの連携を意識して隣接配置。 ・高架下の日陰スペースを有効利用し、夏季でも利用しやすい遊具広場を設置。

上位計画・ニーズそれぞれの各案との整合については下表のとおりとしました。

		◎:3点 ○:2点 △:1点 ×加減なし	第1案	第2案	第3案
上位計画との整合性					
えびな未来創造プラン (R2.4)	・水と緑のレクリエーション拠点		△	◎	○
	・スポーツ施設の推進		◎	△	○
都市マスタープラン (R2.4)	・親水空間、レクリエーション拠点の創出		△	◎	○
	・自然環境とのふれあい、自然度の高い公園		△	○	○
	・散策路、サイクリングロードの整備促進		○	○	○
スポーツ施設の今後の 方向性 (R6.7)	・スポーツ施設の充実		◎	△	○
	・相模川高水敷の整備（スポーツ・コミュニティ広場の整備）		◎	◎	◎
	・相模川スポーツ施設のネットワーク化		◎	◎	◎
海老名市スポーツ推進 計画	・多目的グラウンドを中心とした整備		○	○	◎
	・既存のターゲットバードゴルフ場の存続		◎	◎	◎
	・利便施設（スロープ、駐車場、管理事務所、倉庫、トイレ等）の整備		◎	◎	◎
	・キャンプ場やBBQ施設の検討		◎	◎	◎
			28/36点	28/36点	30/36点
ニーズとの整合性			第1案	第2案	第3案
アンケート分析結果①	・市が実施したスポーツ団体へのアンケート調査では野球団体を中心に野球場整備の要望が多い		◎	△	○
	・県が実施した県民の運動に関するアンケート調査では、平成27年→令和4年でスポーツに関する取り組み状況が減少傾向のため運動施設の需要は少なくなると推測		△	◎	○
施設利用者の動向		・海老名運動公園における野球場の利用者数は直近5年で減少傾向。一方で広場利用者数は横ばい〜増加傾向	△	◎	○
			5/9点	7/9点	6/9点
総合評価			33/45点	35/45点	36/45点

検討した動線計画・ゾーニング案は以下の通りとしました。

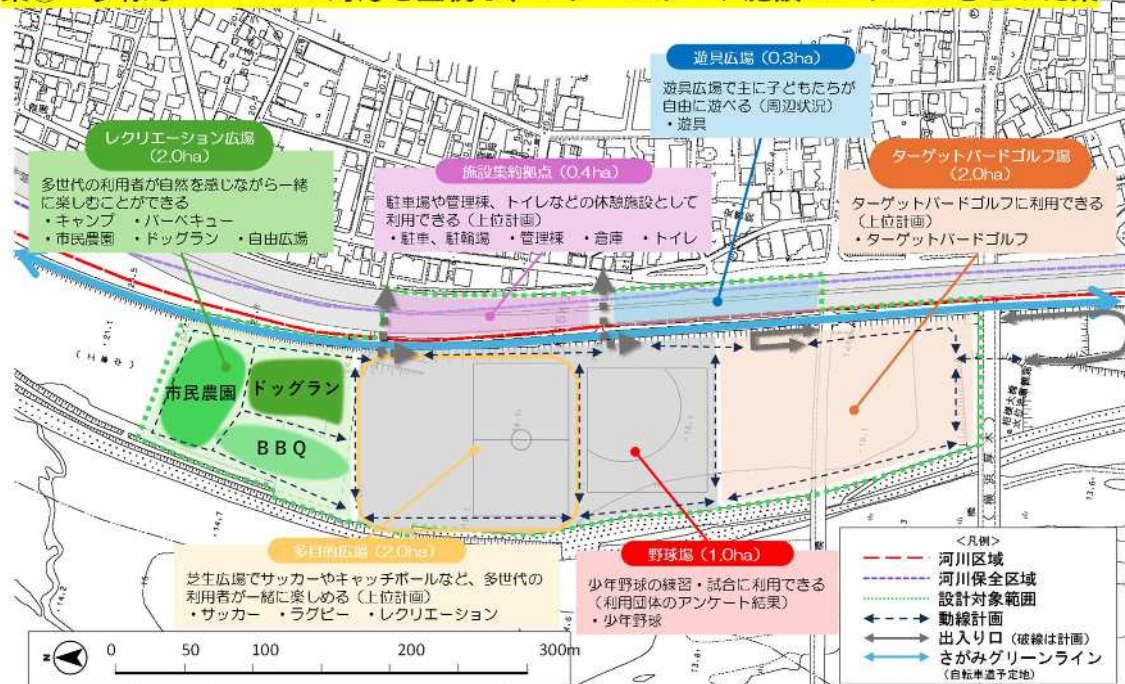
案①：スポーツ推進を重視し、運動施設を充実させる案



案②：レクリエーションを重視し、遊びや体験を行える施設を充実させる案



案③：多様なニーズへの対応を重視し、レク・スポーツ施設のバランスをとった案



第 4 章

導入機能と整備イメージ

4-1. 導入機能

4- 1. 導入機能

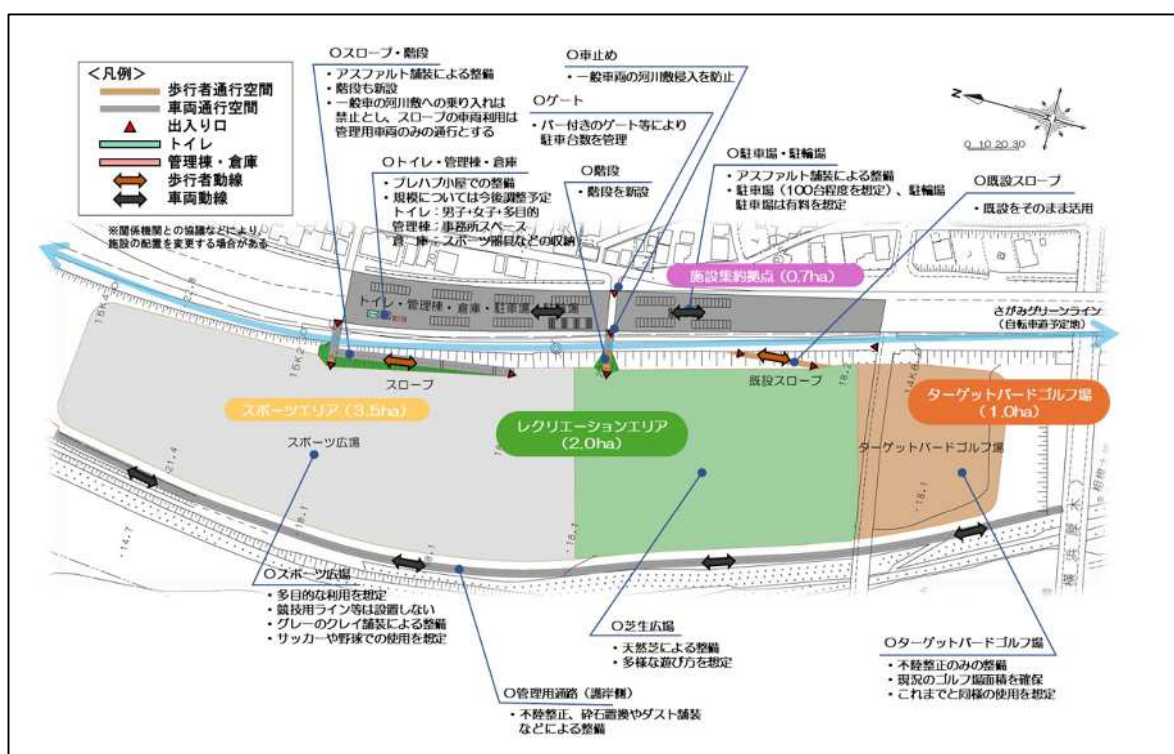
河原口高水敷はその特性上浸水が想定される広場であること、また本格整備が始まるまでの一定期間の利用であることを加味して、導入機能を整理しました。

導入機能は、大きく滞留機能と交通機能の二つに分けられます。滞留機能には、スポーツ広場、芝生広場、ターゲットバードゴルフ場、管理棟を、交通機能には駐車場、駐輪場などの施設を想定しています。

導入機能より、動線計画を整理しました。

高架下から河川敷へのルートは、既存スロープと新設するスロープからの移動を想定しています。駐車場には出入口にバー付きのゲートを設置して、管理します。

■導入機能・施設、動線計画



第 5 章

概算事業費とスケジュール

5-1. 概算事業費

5-2. 整備スケジュール

5- 1. 概算事業費

概算事業費は河川敷エリア、高架下エリアに分割し、算出しました。河原口の総概算事業費は約8.55 億円となりました。

5-2. 整備スケジュール

整備スケジュールは下図のとおりとしました。

河川敷エリアは整備可能期間が渇水期（11月～翌5月）に限定されるため先行して整備し、その後高架下エリアに着手するスケジュールとしています。

令和 7 年度							令和 8 年度																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																					
河川敷部分			整備工事実施							完成・供用開始																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																													

※天候や不測の事態により、スケジュールが前後する場合があります。